

7	西 春	清須市立 西枇杷島中学校	ナカガワ ソウイチロウ 中川 聡一郎
分科会番号	3	分科会名	社会科教育 中学校

社会的な見方・考え方を働かせ、主体的に課題を追究・解決することができる生徒の育成

— 単元内自由進度学習の実践を通して —

1 主題設定の理由

これから到来する「予測困難な時代」を生きる子どもたちにとって、目の前の事象から解決すべき課題を見出し、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すための資質・能力を身に付けることは必要不可欠である。現行の教育課程や「OECD 学びの羅針盤 2030」においても、生徒が主体的に学習に取り組もうとする姿勢が一層求められている。しかし、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して「では、与えられなければ学べない」という姿から脱しきれていないとの指摘もなされている。

6月に本校の生徒（中学3年生 117名）に実施したアンケートでは、「社会科の授業は楽しいか」という問いに98%の生徒が「楽しい」「まあまあ楽しい」と答えるなど、多くの生徒が授業に楽しさを感じていることが分かった。一方で、「課題解決の中で、もっと知りたいと思ったことを解決しようとしているか」という問いに対して肯定的な回答をしたのは、66%にとどまった【資料1】。また、「課題の解決に向けて、困ったときに工夫をすることができるか」という問いに対して、肯定的な回答は68%にとどまった【資料2】。さらに「自分の学び方を振り返って、よかった点や改善点を考えることができるか」という問いに対しても、肯定的な回答は66%にとどまった【資料3】。また、単元のまとめの記述などを見ると、社会的事象どうしを関連付けて考えることを苦手とする姿がみられた。

このような実態から、社会的な見方・考え方を働かせる力や、課題解決に向けてねばり強く取り組む力、自己調整しながら学ぶ力などが身につけていない生徒が多くいることが明らかとなった。

以上のことをふまえ、本研究では「社会的な見方・考え方を働かせ、主体的に課題を追究・解決することができる生徒」の育成を目指し、本主題を設定した。

2 研究の仮説

本研究では、研究の仮説を以下のように設定した。

【仮説1】単元内自由進度学習（以下、自由進度学習と表記）において、学習材を工夫したり、多面的・多角的に議論する場を設定したりすれば、社会的な見方・考え方を働かせて学習することができるだろう。

【仮説2】自由進度学習において、単元を貫く課題を設定したり、自らの学習を計画し、振り返る機会や相互参照ができる場を設定したりすれば、主体的に課題の追究・解決することのできる生徒が育つであろう。

本研究では、「主体的に課題を追究・解決する姿」を「自らの学習を見通したり、振り返ったりしながら、課題の追究・解決に向けてねばり強く取り組む姿」と定義する。

3 研究の手だて

（1）仮説1：「社会的な見方・考え方を働かせる」ための手だて

① 学習材の工夫

自由進度学習において、生徒が主体的に学習を進める中で、社会的事象を多面的・多角的に考えることができるよう、「ヒントカード」を準備する。

② 多面的・多角的に考え、議論する場の設定

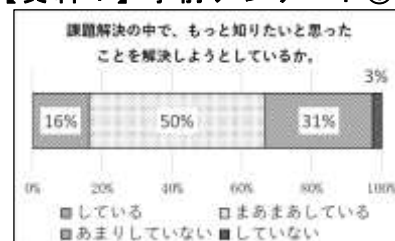
これまでの学習内容を活用して、多面的・多角的な視点から、お互いの意見を評価し、議論する場を設定することで、社会的な見方・考え方を働かせる場面をつくる。

（2）仮説2：「主体的に課題を追究・解決させる」ための手だて

① 単元を貫く課題の設定

第1時で生徒たちから疑問を引き出ししながら、単元を通して追究していく課題を設定するとともに、単元の最後に、課題に対する自分の考えをまとめることを伝えることで、単元を

【資料1】事前アンケート①



【資料2】事前アンケート②



【資料3】事前アンケート③



見通した学習を進めさせる。

② 自らの学習を見通したり、振り返ったりする時間の設定

授業の最初に自らの学習を見通し、それをもとに学習を進め、授業の最後に自らの学びを振り返るサイクルをつくることで、自己調整の力を高めることにつなげる。

③ 相互参照ができる場の設定

単元の目標や使用する学習シート、計画・振り返り表などを1枚のカードにまとめ、ロイロノート・スクール（株式会社 LoiLo、以下「ロイロノート」と表記）で配付する。その際、ロイロノートの共有ノート上にカードを置くことで、相互参照を可能にする。

4 実践した単元について…中学3年生・公民的分野「現代の民主政治」

（1）単元目標

- 政治や社会の現状や課題についての的確に読み取ったり、文章や図表などにまとめたりして、国の政治のしくみについて理解することができる。（知識及び技能）
- 民主政治と世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 民主政治をよりよく運営していくために必要なしくみや、政治への関わり方について、主体的に追究しようとする。（学びに向かう力、人間性等）

（2）単元計画（6時間完了）

時数	教科書のタイトル	主な学習内容	学習形態
1	導入・政治と民主主義	民主政治の考え方やそのしくみ	一斉・個別・協働
【単元を貫く課題】なぜ政治に国民が参加することが重要なのか？			
2	選挙の意義としくみ	選挙制度とその役割	個別・協働 自由進度学習
3	政党の役割	民主政治における政党の役割	
4	マスメディアと世論	マスメディアの役割と影響	
5	選挙の課題と私たちの政治参加	政治参加への課題とあり方	
6	【発展課題】日本の民主主義をよりよくするためには？		個別・協働

（3）単元選択の理由

本単元は、現代の民主政治と国民の政治参加の関わりを学ぶ。18歳から選挙権が与えられる今、中学3年生にとって、自分たちの未来に直結する身近なテーマで、当事者意識をもちやすい内容である。また、現代の民主政治の課題は、一つの正解を出せるものではない。民主主義や今の日本の民主政治について、社会的な見方・考え方を働かせながら、社会的事象を多面的・多角的に考え、課題解決に向けて主体的に学習に取り組む姿に期待した。

5 抽出生徒について

事前アンケートの回答と日頃の学習の様子から、2名の生徒を抽出した。

	生徒X	生徒Y
課題解決の中で、もっと知りたいと思ったことを解決しようとしているか。	まあまあしている	あまりしていない
課題解決に向けて、困ったときに工夫をすることができるか。	あまりできない	まあまあできる
自分の学び方を振り返って、よかった点や改善点を考えることができるか。	あまりできない	まあまあできる

<生徒X>

社会科の授業に対して、前向きである。課題解決に向けてねばり強く取り組んだり、工夫したりする姿勢に少し課題がある。本単元のように一つに正解が決まらない課題に対しても、社会的な見方・考え方を働かせながら、ねばり強く自分なりの結論を導き出そうとする姿を期待した。

<生徒Y>

語句の暗記は得意である。「社会科は暗記科目」ととらえている。一斉授業の中では、自分の意見を表現することや、疑問に思ったことを自ら進んで解決しようとするに対して、消極的である。現代の民主政治について学習の中で、社会的な見方・考え方を働かせ、とき

に友だちと協働しながら、主体的に学ぶ姿が表れることを期待した。

6 研究の実際と考察

(1) 自由進度学習を始めるにあたって

① 学習材の工夫と相互参照ができる場の設定

単元の目標や単元内で使用する学習シートを一つにまとめた「単元シート」を作成した【資料4】。また、テストカードも配付し、いつでも確認テストができるようにした。「単元シート」は、ロイロノートの共有ノートに配付した。あわせて、自由進度学習の中で、生徒が自ら教科書から情報収集を行う際のヒントにしたり、社会的な見方・考え方を働かせたりできるよう、「ヒントカード」を作成した【資料5】。「ヒントカード」では、教科書に合わせて「民主主義」「政党」「選挙」「メディア」の4つを取り上げた。

② 自らの学習を見通したり、振り返ったりする時間の設定

自由進度学習では、本時で何を学ぶか、誰と学ぶかを自分で決めて学習を進める。授業の冒頭に、自分が本時で学ぶことや、学び方について、見通し・目標を立てさせ、学習シートに記入させた。また、授業が残り5分～10分になったところで、自分の学びがどうだったかを振り返らせた。

(2) 第1時～第5時 自由進度学習の様子

① 第1時 単元を貫く課題の設定から、自由進度学習へ

第1時の冒頭、総理大臣指名の動画や新聞記事から政治が日々変化していることを確認した。続いて、年代別投票率の推移や棄権理由（関心の低さ等）のデータを提示した。20代の投票率の低さに「低すぎる」と驚くなど生徒の問題意識が高まったところで、「なぜ政治に国民が参加することが重要なのか？」を単元を貫く課題として設定し、各自で見通しを立てて自由進度学習に入った。

② 第2時～第5時 自由進度学習の様子

第2時・第3時では、教科書等から情報を収集・整理する生徒や、テストカードで知識の定着をはかる生徒など、進度に応じて学習方法を選択・調整する姿がみられた。生徒Xは、ヒントカードを活用しながら一人で学習を進め、単に語句を写すだけでなく「民主主義には政治参加や選挙が重要」と関連付けて気付くことができた【資料6】。生徒Yは「なぜ関心が低いのか」という問いについて友だちと意見交換し、主体的に学びを深める意欲の高まりを見せた。

第4時になると、単元を貫く課題についてまとめ始める生徒が出始めた。生徒Xは、政党について友だちと協働しつつ、まとめに向けた要素を計画的に整理した。生徒Yは「国民が政治に参加しなくなるとどうなるか」というテーマで探究を進め、インターネット等で情報を集めながら日本の現状について友だちと意見を交わし、学びを深めた【資料7】。

第5時では、多くの生徒が単元を貫く課題に対するまとめに入った。これまでの学びを蓄積した学習シートやヒントカードを見返しながら、自らの考えを記述する姿がみられた。

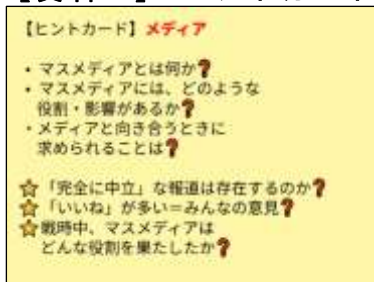
まとめが終わった生徒には、友だちどうしで読み合い、意見交換をしたり、次時に話し合う「日本の民主主義をよりよくするためには？」という課題について、自分の考えを整理したりするように伝えた。

生徒Xのまとめの記述からは、選挙によって選ばれた代表者が政策を決めるという民主主義の基本を理解した上で、医療や教育といった日常の課題と政治を関連付けてとらえられたことが読み取れた。振り返りには、「今までの資料を使ったり、矢印を使ったりしたことで、今まで以上にまとめたことがわかりやすくなってよかった」と自らの学びに手ごたえを感じた様子であった。生徒Yは、これまでの学習で整理した知識をもとに、国民が政治に参加しないことのリスクを中心にまとめた。書き終えた後は、友だちどうしで発表し合うだけでなく、「国民の政治への関心を高めるにはどうすればよいか」について意見交換をしたり、タブレット端末で調べたりする姿がみられた。

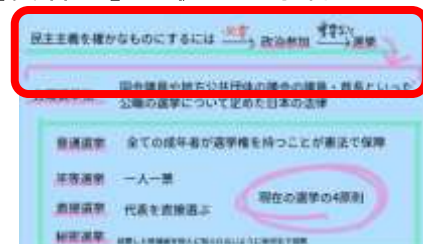
【資料4】「単元シート」



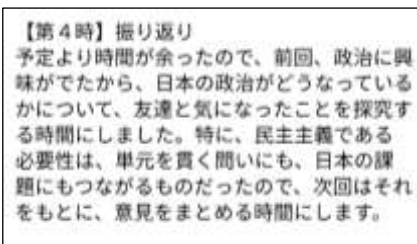
【資料5】「ヒントカード」



【資料6】生徒Xの学習シート



【資料7】生徒Yの振り返り



生徒 X・Y の単元を貫く課題に対するまとめは次の通りである【資料 8・9】。

【資料 8】課題に対する生徒 X のまとめ

国民が政治に参加する必要がある理由は、社会全体の方向性を決める大切な役割だからだと考える。民主主義の日本では社会がどのように動いているのか、どのような政策を採っているのかなどは選挙によって選ばれた代表者によって決められる。また、環境問題や医療、教育といった私たちの日常で起こる問題が政治によって変わってくる。だから、私たち国民が積極的に政治に関わることで私たちの生活を豊かなものにするためにも政治参加が必要と考える。また、社会の問題を解決する力を高めるためにも国民の政治参加は必要と考える。例えば、ある問題に対する国民の意見を SNS やインターネットに発信することで政府や政党はその意見を参考に政治を行う場合があるからだ。このように、国民が政治に参加する必要がある理由には社会を自分たちの力で変え、政治をより良いものにするからだと私は考える。

【資料 9】課題に対する生徒 Y のまとめ

もし、国民が政治に参加しなくなったら、民主主義が崩れ、独裁的な国家に変わっていきます。現在の日本でも、少子高齢化や、若い世代の、政治への関心が下がってきていることから、選挙に参加する割合の高い高齢者の意見を多く取り入れられ、若者の意見は、取り入れられづらくなっています。他にも、政党の政策決定の質が低下したり、権力の濫用も起こり得ます。そんな独裁的な国家にならないためにも、国民は、政治に参加する必要があると思います。

生徒 X は、政治の役割や参加の手段を多面的にとらえ、自分なりの結論を導き出している。記述の中では、政治の役割を「社会全体の方向性を決める」という大きな視点からとらえるだけでなく、環境問題や医療、教育といった「日常で起こる身近な問題」とも密接に関連付けている。さらに、政治参加の手段についても、選挙に限らず、SNS やインターネットに発信するという現代的なアプローチも考えている。このように、民主主義のあり方を多面的・多角的にとらえ、「社会を自分たちの力で変える」という主権者としての前向きな解決策を見出していることから、社会的な見方・考え方が十分に働いていることが分かる。

生徒 Y は、政治に参加する意義を「もし参加しなくなったらどうなるか」という逆の側面から多面的に考えている。また、投票率の高い高齢者の意見が多く取り入れられ、若者の意見が反映されづらくなるという世代間の対立や不平等さに気付き、現代の政治課題を公正の視点から多角的にとらえることができていることから、社会的な見方・考え方が働いたといえる。

③ 第 6 時 多面的・多角的に議論する場の設定

第 6 時では、これまでの学習を生かしながら「日本の民主主義をよりよくするには？」を発展課題として、話し合い活動を行った。前時にまとめた単元を貫く課題に対する考えを集約し、生成 AI を使って画像化したものを、授業の冒頭に提示し、政治に国民が参加することの重要性を確認した【資料 10】。その後、発展課題について、自分が取り上げたいテーマを決め、考えをまとめさせた。生徒たちは、「若者の投票率」「政治家への信頼」「報道の公平性」など、それぞれの問題意識に応じて、民主主義をよりよくするためのテーマを選ぶ様子がみられた。テーマが決まった生徒は、アンケートカードに入力させることで、取り上げたテーマを互いに見られるようにした。例えば、投票率の低下について問題意識をもったある生徒は、「ネット投票にしてはどうか」と考えた。それについて友だちから、「ネット投票だと本当は誰が投票したのかわからないのでは」という指摘を受け、再度考えを練り直す姿がみられた。また、「法律をつくって投票を強制にするのはどうか」と考えた生徒は、友だちとの交流やインターネットで情報を集める中で、「確かに投票率が上がるが、いい加減に投票する人も増える」「投票しないより、しっかり調べず適当に投票される方が、国のためにならない」といった意見に触れ、選挙のあり方だけを変えればよいという訳にはいかないことに気付くなど、多面的・多角的な視点から考えを深める姿がみられた。

生徒 X は、自身の生活経験から、「メディアはなぜ、政治家の悪いところばかりを報道するのか」という問題意識をもった。当初はその原因を、メディア側の姿勢にのみ求めていたが、友だちとの意見交換の中で、情報を受け取る側（国民）の態度がメディアの報道姿勢に影響を与えているということに気付いた。そこで、より自分事としてとらえさせるために「そうならないために何ができるか」と教師から問いかけたことで、「複数の情報源を見比べる」「情

【資料 10】生成 AI で作成した画像



【資料 11】第 6 時の生徒 X の考え



報を取り入れながら、自分たちなりに調べたり考えたりする」といった、情報の受け手としてのメディアとの向き合い方まで考えることができた【資料 11】。

生徒 Y は、これまでの学習を通して、「若者の投票率が低いままだと、高齢者の意見ばかりが反映される」という危機感をもっていた。単元を貫く課題に対するまとめでは、若者の意見を政治に反映させるための具体的な手だてを考えることができていなかったが、本時の課題と向き合う中で、インターネットを活用した具体策を考えることができた。また、友だちと交流する中で、インターネットの負の側面にも考えを巡らせ、誤情報に惑わされずに、政治への信頼や投票率の向上につながる方策を考えることができた【資料 12】。

7 研究の成果

実践後、事前アンケートと同様の事後アンケートを実施したところ、抽出生徒 X・Y のどちらの回答にも変容がみられた【資料 13】。

【資料 13】生徒 X・生徒 Y の変容

	生徒 X		生徒 Y	
	事前	事後	事前	事後
課題解決の中で、もっと知りたいと思ったことを解決しようとしているか（できたか）。	まあまあしている	→ できた	あまりしていない	→ できた
課題解決に向けて、困ったときに工夫をすることができるか（できたか）。	あまりできない	→ できた	まあまあできる	→ できた
自分の学び方を振り返って、よかった点や改善点を考えることができるか（できたか）。	あまりできない	→ まあまあできた	まあまあできる	→ まあまあできた

（1）仮説 1：「社会的な見方・考え方を働かせる」ための手だて

① 学習材の工夫

生徒の目標や振り返りの記述には、「3 時間で教科書の内容をまとめて、残りの時間で単元を貫く課題についてまとめたい」といった記述がみられた。「単元シート」に単元を貫く課題が常に提示され、振り返りシートに残り時数が明記されていたことで、生徒が学習のゴールを意識し、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができたといえる。また、学習が苦手な生徒や、これまで語句を列挙するだけで学習を終えがちだった生徒も「ヒントカード」を有効に活用する姿がみられた。学習材の工夫が足場かけとなり、社会的な事象どうしを関連付けて自ら学びを深めることができており、社会的な見方・考え方を働かせるための有効な手だてであったといえる【資料 14】。

② 多面的・多角的に考え、議論する場の設定

生徒 X は、友だちとの意見交換を通して、メディアの報道姿勢を批判するだけでなく、情報を受け取る国民側の姿勢にも目を向け、多角的な視点からメディアと政治の関係性をとらえ直す姿がみられた。生徒 Y は、若者の関心を高めるためのインターネットの活用について、情報の伝達しやすさという利点と、誤情報が広がるという問題点の両面から多面的に考え、「政治家自らが発信する」という解決策を導き出した。議論する場を設定したことで、異なる価値観や多様な視点に触れ、一面的な見方から脱却し、多面的・多角的に比較・吟味しながら、社会的な見方・考え方を働かせた自分なりの納得解を考え出すことができたといえる。

（2）仮説 2：「主体的に課題を追究・解決させる」ための手だて

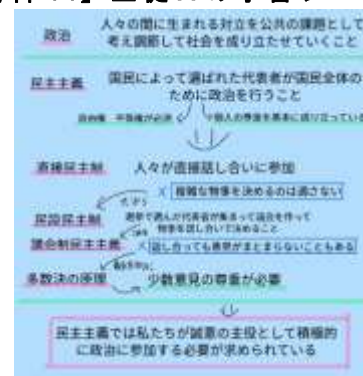
① 単元を貫く課題の設定

実践後に実施した「単元を貫く課題や目標を意識しながら、学習することができたか」というアンケートに、91%の生徒が肯定的な回答をした【資料 15】。生徒 X・Y はどちらも「できた」と回答した。生徒 X は、第 1 時では「単元を貫く課題に対する答えをしっかりと自分なりに考えることを目標に…」、第 2 時では「重要な出来事や関係について詳しくまとめて答えにつながるように…」と記述するなど、常に単元を貫く課題に対して、自分なりの答え

【資料 12】第 6 時の生徒 Y の考え

○日本の民主主義をよりよくするためには投票率を上げなければ、民主主義は成り立たなくなるから、まずは、国民の意欲を上げていかなければいけないと思います。特に、若者の投票率が低いという問題を解決するために、若者の関心を高める必要があると思います。例えば、インターネットを利用した選挙活動がいいと思います。インターネットの使用率は、85%を超えているため、多くの人の目に留まるし興味を持つきっかけになると思います。他にも、今の時代、ネットやメディアでは、誤情報が出回ってしまうから、本人が情報を提供することによって、正しい情報を知ることができ、それが政治への信頼性も上げ、投票率の向上にもつながると思います。

【資料 14】生徒 X の学習シート



【資料 15】事後アンケート①



を出すことを前提にして学びに向かう姿がみられた。生徒Yは、第3時で「なぜ国民の政治への関心が低いのか」、第4時で「国民が政治に参加しなくなるとどうなるのか」といった問いを見出し、追究を進めた。これらの問いは、単元を貫く課題を解決しようとする過程で生まれたものであり、明確なゴールの設定が、生徒Yの主体性を引き出すことに繋がった。

このように、単元を貫く課題の設定により、知識を活用する目的が生まれ、主体的に課題を追究・解決しようとする姿勢を引き出す上で有効な手だてであったといえる。

② 自ら学習を見通したり、振り返ったりする時間の設定

実践後に実施した「自分の学び方を振り返って、良かった点や改善点を考えることができたか」というアンケートに95%が肯定的な回答をした【資料16】。生徒Xの目標や振り返りには、本時の学習で何をどうやるかを明確にしたり、学びを振り返って、次に生かしたいことを表現したりする記述がみられた【資料17】。生徒Yは、振り返りにおいて本時の成果を書くだけでなく、次時に取り組みたいことを書いた。第3時の振り返りには、「友だちと意見交換しながらやっていたら、どんどん疑問が浮かんできて、政治への関心が深まった」という記述がみられ、自ら学びに向かう姿勢の高まりが感じられた。

また、「課題解決の中で、もっと知りたいと思ったことを解決しようとすることができたか」というアンケートには、91%の生徒が肯定的な回答をした【資料18】。このように、自らの学習を見通したり振り返ったりする時間を設定したことは、生徒の主体性を引き出し、ねばり強く課題を追究していくことにつながったといえる。

③ 相互参照ができる場の設定

実践後に実施した「課題の解決に向けて、困ったときに工夫をすることができたか」というアンケートに89%の生徒が肯定的な回答をした【資料19】。

見通し・目標を設定する場面では、他の生徒がどのようなことを記述しているのかを参照してから、書き始める生徒もいた。また、友だちの学習状況がリアルタイムでみられるため、協働しやすくなったと考える。

生徒Xは、友だちと協働しながら、学習を深める様子がみられた。生徒Yは、一斉授業の中では発言に消極的であるが、相互参照ができる場を設定したことで、生徒Yの学習シートを参考にする生徒が出てきた。わからないことや困ったことに会ったときに頼る選択肢となったり、協働をより活性化することにつながったりしたことから、主体的な学びを引き出すために、この手だては効果的であったと考える。

8 今後の課題

本実践では、ヒントカードを用意したものの、それだけでは情報の収集・整理に苦戦する生徒もみられた。一人ひとりの学びを保障するためには、学習シートの難易度や課題設定に段階性を設けるなど、支援の手だてをさらに工夫していく必要がある。

また、単元の最後に発展課題として「日本の民主主義をよりよくするには？」を設定したが、問いの範囲が広く抽象的であったため、意見交流の際に議論が発散してしまう場面がみられた。単元で学んだ知識や身につけた見方・考え方を最大限に活用しながら、より質の高い合意形成や納得解の構築につなげるために、問いの設定や、場づくりについてさらなる工夫に努めたい。

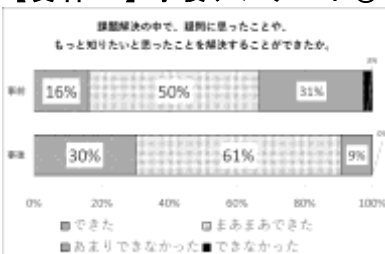
9 参考文献

- ・社会科「個別最適な学び」授業デザイン理論編（宗實直樹著、明治図書、2023年）
- ・社会科「個別最適な学び」授業デザイン実践編（宗實直樹著、明治図書、2023年）
- ・中学校学習指導要領（平成29年告示）社会編（文部科学省、2017年7月）

【資料16】事後アンケート②



【資料18】事後アンケート③



【資料17】生徒Xの見通し・目標と振り返り

【第2時】見通し・目標

教科書を通し読みしたので、②までは進めたい。その中で重要な出来事や関係性について、詳しくまとめて答えにつながるようにすることを目指に取り組む。

【第2時】振り返り

今回目標にしていた②を終わらせることができなかったのは反省点だったが、目標にも書いた出来事の関係性を①で詳しく繋げたことで、構成を理解することができたのは、次回にも続けられるようにしていきたい。また、②の途中で終わってしまったことから、ゴールに届くまではまだ時間がかかるので、自分の現在地を理解した上で次回の学習に取り組みたい。

【資料19】事後アンケート④

